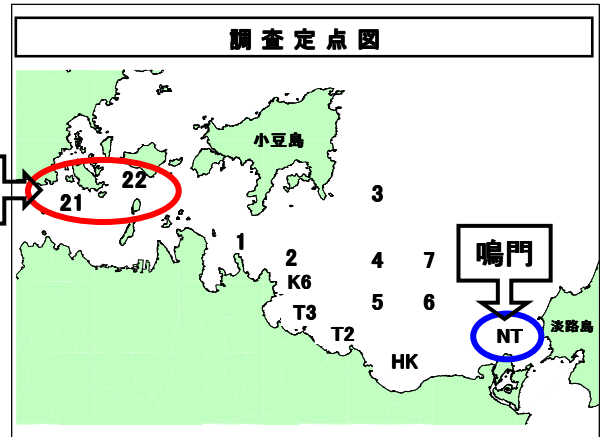


# カタクチイワシ卵稚仔出現状況

(2009. 7- 2)

香川県水産試験場 宮川

TEL: 087-843-6511



## 調査方法

調査日: 7月16日

調査方法: 丸特ネットによる鉛直曳

調査定点: 播磨灘11定点+備讃瀬戸2点+鳴門1点(中旬のみ)

(調査定点図参照)

## 【カタクチ卵】 定点別出現数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	14点平均値
2007.7.19	0	0	5	0	0	0	1	0	1	0	0				0.6	-
2008.7.18	1	2	2	0	1	60	13	0	3	1	0	0	0	53	7.5	9.7
2009.7.18	0	0	268	3	0	3	10	0	0	0	0	0	0	6	25.8	20.7
2010.7.16	1	2	44	23	0	15	40	0	0	0	1	0	0	4	11.5	9.3

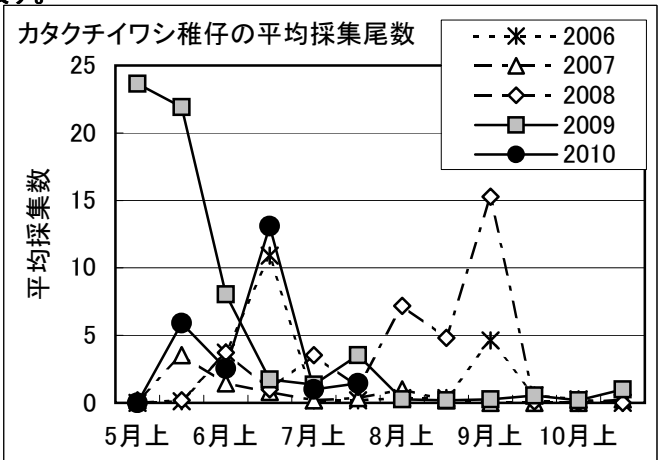
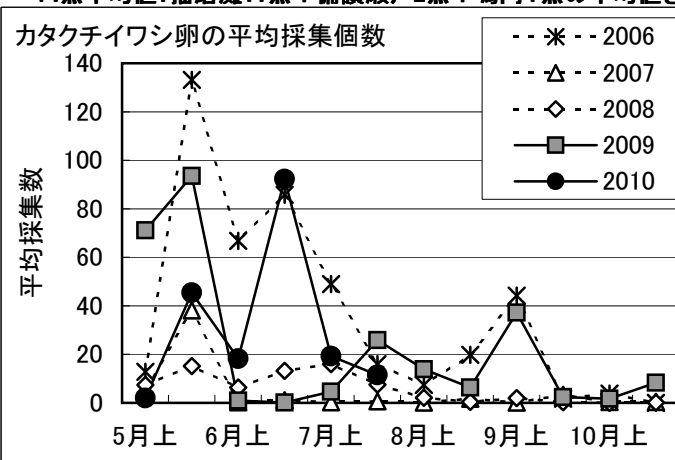
## 【カタクチ稚仔】 定点別出現尾数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	14点平均値
2007.7.19	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1				0.4	-
2008.7.18	0	0	9	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1.2	0.9
2009.7.18	0	0	4	8	5	8	13	1	0	0	0	0	1	2	3.5	3.0
2010.7.16	0	0	1	5	2	2	4	0	0	0	2	0	0	0	1.5	1.1

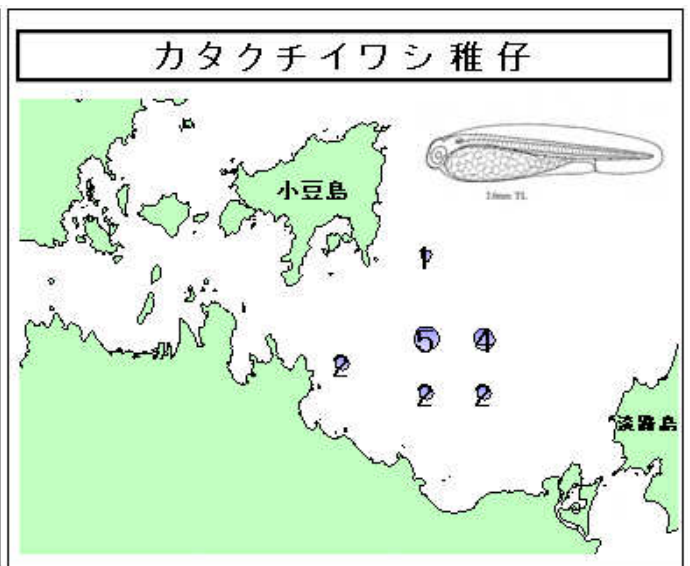
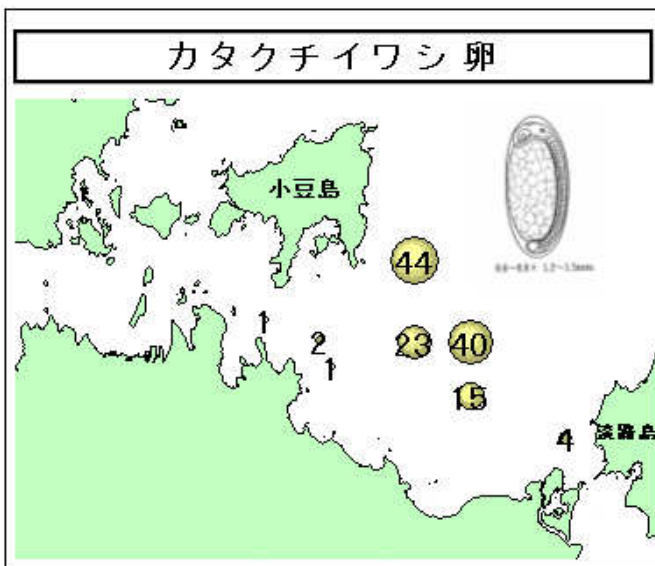
\* 表中の「-」は未測定を表す。

\* 11点平均値: 播磨灘11定点の平均値を表す(備讃瀬戸および鳴門を除く)。

\* 14点平均値: 播磨灘11点+備讃瀬戸2点+鳴門1点の平均値を表す。



\* グラフの値は播磨灘11定点における平均値を表す。



播磨灘11定点における卵の平均出現数は約 12個となり、昨年同時期を下回った。卵は沖合での出現数が多かった。

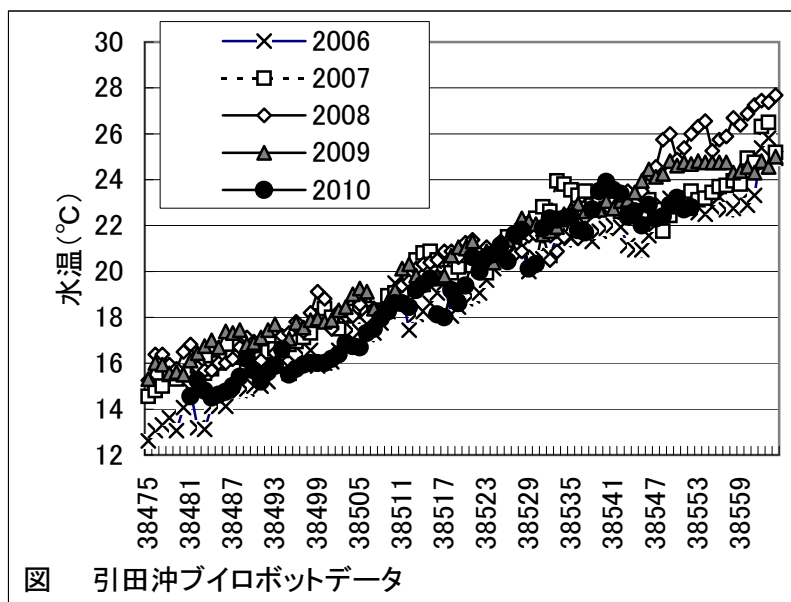
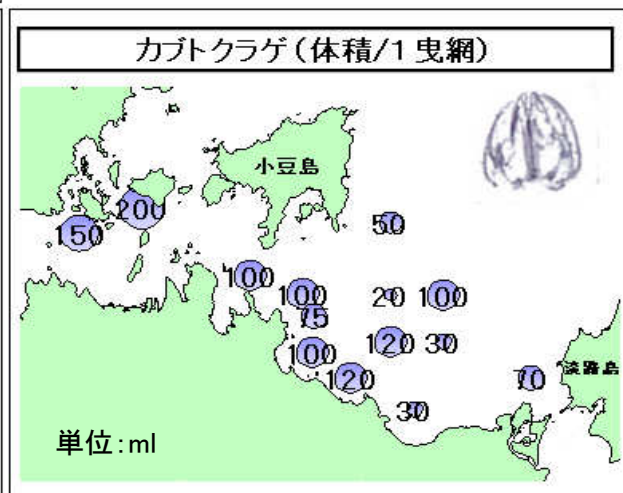
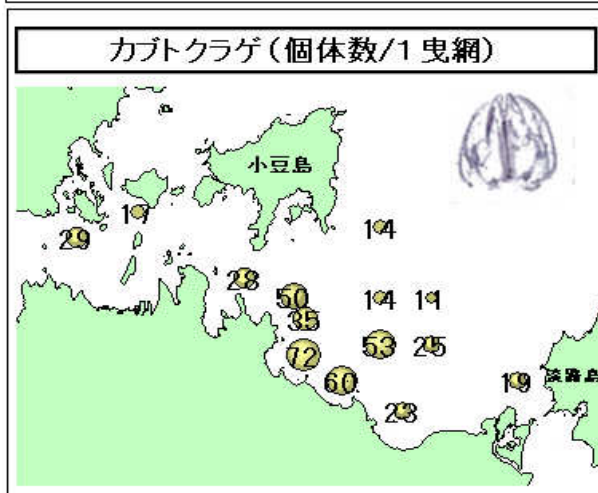
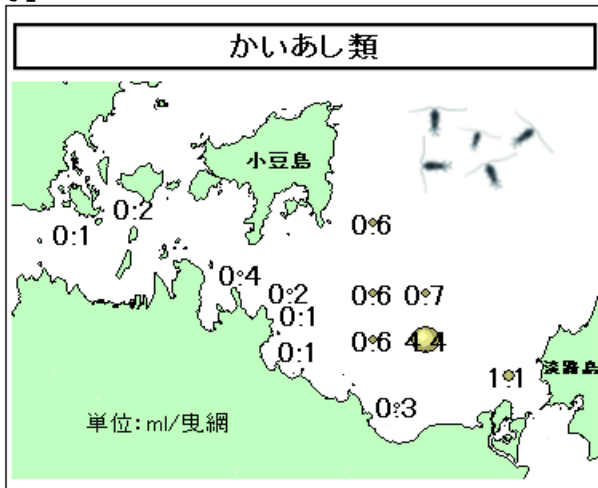
一方、稚仔の出現も平均で約 1.5尾となり、昨年同時期を下回った。稚仔の出現は前回同様わずかに認められる程度で、播磨灘での稚仔の出現が少ない傾向を示した。

引田沖に設置した水温ブイ(午前9時)によると、6月下旬以降の水温はかなり低めから平年並みの間で推移している。

餌料生物として重要なかいあし類は、前回より増加し、11点の平均は0.72個体と前回の9.5倍に増加した。

ただし、全域でカブクラゲが増加しており、11点の平均は35個体であった。カブクラゲは動物プランクトンを餌とし、水温が高いと成長も早いことから、餌料生物の増減に影響を与えることが懸念される。

【参考】



※カタクチイワシ卵稚仔情報は、「水産試験場ホームページ」の「情報提供」の「カタクチイワシ卵稚仔速報」でも公開しています。

<http://www.pref.kagawa.jp/suisanshiken/>